

【水の作文大賞】

水、時を越えてく

嘉島町立嘉島中学校 二年 石坂 音羽

私の住んでいる嘉島町は、「水の郷」と呼ばれるほど水が豊かな町だ。地下水を利用してはいるため、蛇口をひねるといつでも、冷たくてきれいな水が出てくる。毎年夏になると、下六嘉にある天然プールへ行く。天然プールの水は透きとおっていて、陽の光が反射し、キラキラと輝いている。水面に顔を近づけると魚がいきいきと泳いでいる。学校の蛇口の水はキンキンに冷えていて、ろう下にでるといつも、

「冷たい！おいしい！」

という声がきこえてくる。私は水が使えるのはあたり前の事で、なくなることはないと思っていた。

しかし、三年前に熊本地震が発生し、私たちの生活は一変した。風呂やトイレも使えなくなり、不安な気持ちでいっぱいだった。水がない事が、私たちの生活に大きな影響を与えてしまうということを実感した。三日後、私は嘉島町民体育館に避難した。トイレも使えるようになり、お風呂も自衛隊の方々が仮設風呂を作って下さった。あの時、友達と一緒に入ったお風呂の温かさは、これから先も忘れないだろう。

今までは水があることはあたり前だと思っていた。しかし、熊本地震を通して水は大切な資源であり限りあるものだと気づかされた。同時に嘉島町はなぜ「水の郷」と言われているのか、調べてみたいと思った。祖父に尋ねてみると祖父は嘉島町の水の歴史について詳しく教えてくれた。嘉島町は四方を緑川や加勢川等に囲まれており阿蘇からの源流が湧き出る水郷の町であるそうだ。その一方、十数年前までは毎年のように洪水にみまわれるほどの水害常襲地帯となっていたという事を聞き驚いた。しかし、話によると平成十一年に河川改修が行われてからは洪水はなくなり人口も年々増加しているそうだ。これらの事から私は、よりよ

い町にするためたくさんの取り組みを考えそれらを実行することで町の発展につなげている嘉島町は本当にすごいと思った。また祖父は湧水のことについても話してくれた。豊富できれいな湧水だけで生活できているのは熊本県内で嘉島町だけ。そして平成の名水百選に選ばれた六嘉湧水群や浮島に加えサントリー工場は、観光資となったと話してくれた。この話を聞き、町の良い所を生かし住みやすい町づくりを心がけているのがとても良いと感じた。嘉島町が「水の郷」と呼ばれるからこそ「水と人とのかわり」や「水を活かす取り組み」を大切にしていきたいと思った。自分たちに出来ることは小さなことかもしれないが、今私に出来ることがないか考えてみた。一つは節水だ。今までは水が出ることはあたり前だと思い、無駄遣いしてしまっていた。歯をみがく時や、シャワーを使用する際などに出しっぱなしになっていた水も少し意識を変えただけで出しっぱなしにすることが減った。二つ目は川の清掃活動に参加することだ。今も行われてはいるが参加しているほとんどが高齢者で、若者が参加していない。これから先も水が豊かな町であるために、定期的に地域で行われている用水路や川のそうじ等に積極的に参加していこうと思う。

私が大人になったら、この体験から感じた事や学んだ事を子供達に伝えたい。それは、水があるという当たり前に思える事に感謝して生活するべきということだ。私たちが生活するためになくてはならない水の大切さを次世代に伝え、緑豊かな熊本の美しい水を守っていくことが、私たちに託された使命である。